

招聘作家

Fellows

フランチェスコ・オットネッロ

Francesco Ottonello

花氷

Hanaka

イサベル・ガリモア

Isabel Gallegymore

チラット・チャルムセーンヤーコーン

Jirat Chalermpanyakorn

カーリーナ・ロブレス・バーリン

Karina Robles Bahrin

キム・ヘビン

Kim Hyebin

ムティター・パーニッチ

Muthita Panich

パトリック・フラナリー

Patrick Flanery

第4回京都文学レジデンシー オープニング・フォーラム
熊も抱きしめる

Kyoto Writers Residency 04 Opening Forum

Embraced by Bears

2025年10月19日[日]

14:00-16:00(開場13:30)

松栄堂 薫習館

KARANIホール

京都市中京区烏丸通二条上ル東側

参加費無料・事前申込優先(先着60名程度)

日英逐次通訳あり／ライブ配信あり

司会: 藤井光

(翻訳家、東京大学／京都文学レジデンシー実行委員)

主催: 京都文学レジデンシー実行委員会

共催: 立命館大学国際言語文化研究所／龍谷大学／京都芸術大学

特別共催: 国際交流基金

協力: Arts Council Korea／イタリア文化会館-大阪

株式会社共立メンテナンス／京都 葛屋書店／丸善ジュンク堂書店

協賛: DMG森精機株式会社／香老舗 松栄堂

後援: 京都市／京都経済同友会／京都市教育委員会

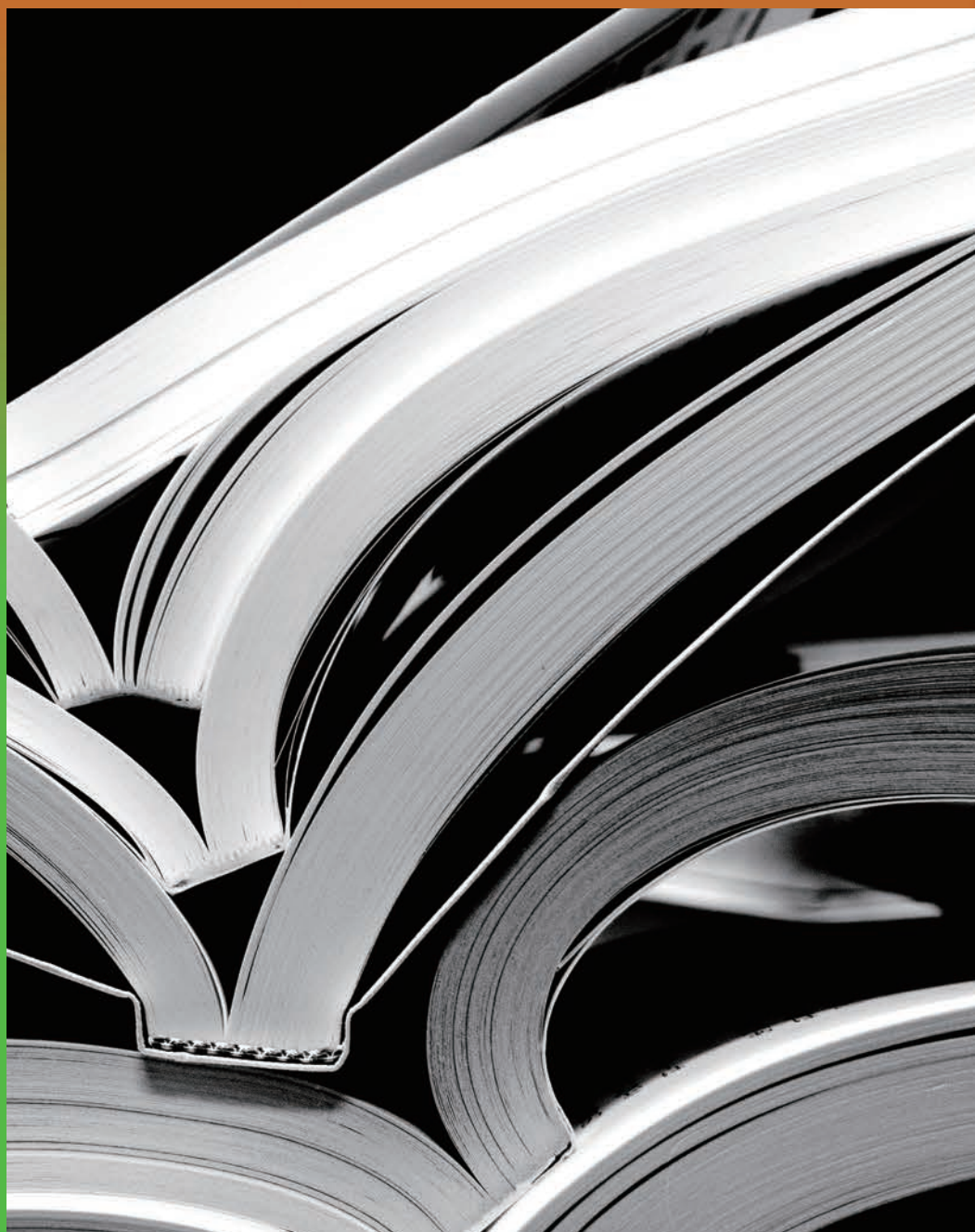
共同プロデュース: MUZ ART PRODUCE／CAVA BOOKS

京都市「Arts Aid KYOTO」補助事業



京都文学
レジデンシー

ウェブサイトから
申込受付



熊も抱きしめる

第4回京都文学レジデンシー オープニング・フォーラム

Kyoto Writers Residency 04 Opening Forum

Embraced by Bears

現在、世界中で分断と排外主義がはびこっています。さらに人間の営みによる環境破壊が進み、自然界への影響も大きくなっています。日本では熊と人間の共存がクリティカルな問題としてあります。熊をひとつのメタファーとして、自分とは異なるものをどう抱きしめられるのか、京都文学レジデンシーに集った人々が語り合います。

Today's world in crisis—it's divided, exclusionism is everywhere, and human activities accelerate environmental deterioration, revealing its consequences. One critical issue in Japan now is the problem of coexistence between humans and wild bears. What if we see a bear as a metaphor—how can we embrace others who are different from ourselves? The fellow writers at Kyoto Writers Residency 04 will discuss “bears” of our life today.

第4回京都文学レジデンシーは、2025年10月18日[土]から11月17日[月]の期間に国内外から8名の詩人・小説家・翻訳家を京都に招聘します。作家が京都に滞在し創作活動を行うほか、オープニング・フォーラムをはじめとした市民との交流イベントを実施します。詳細はウェブサイトやSNSをご確認ください。https://kyotowriters.org



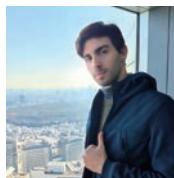
イベントに関するお問い合わせ先:
京都文学レジデンシー実行委員会 kyotowritersresidency@gmail.com



松栄堂 薫習館

京都市中京区烏丸通二条上ル東側
Tel: 075 212 5590 ※駐車場あり
営業時間 10:00-17:00 (不定休)
・地下鉄 烏丸線「丸太町駅」
7番出口 徒歩3分
・地下鉄 烏丸線/東西線「烏丸御池駅」
1番出口 徒歩5分

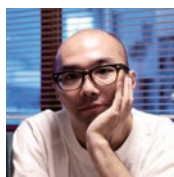
招聘作家 Fellows



フランチェスコ・オットネッロ | Francesco Ottonello

イタリア(イタリア文化会館-大阪フェロー)

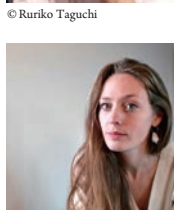
イタリア、カリアリ生まれ。詩人。古典受容とイタリア文学に関する博士号を持つ。詩集に『Isola aperta』、『Futuro remoto』など。古典的遺産、翻訳論、島嶼研究、ポストヒューマンのテーマを横断する創作を展開している。詩のウェブメディア mediumpoesia.com ディレクター。



花氷 | Hanaka

日本(京都文学レジデンシー フェロー)

東京都生まれ。詩人。演出家の野田秀樹氏に師事。俳優活動を経て、2020年頃より詩作を始める。2024年、第62回現代詩手帖賞を受賞し、第一詩集『オ・ラバン・アジルの夜』を刊行。



イサベル・ガリモア | Isabel Gallegmore

英国(京都文学レジデンシー フェロー)

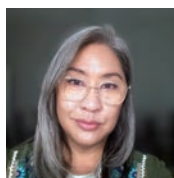
イギリス出身。詩人。詩集『Significant Other』、『Baby Schema』があり、作品は New York Review of Books や The Times Literary Supplement などに掲載。2023-24年、ハーバード大学フェロー。現在、英国バーミンガム大学准教授。



チラット・チャルムセーンヤーコーン | Jirat Chalermksanyakorn

タイ(国際交流基金ASEAN文芸フェロー)

タイ出身。小説家。バンコクのチュラーロンコーン大学にて世界文学とクリエイティブ・ライティングを担当している。短編集『Kao Ruang Sun』、『Kon Kwam Mai Ja Hai Lab』、『Sa Ta Na Karn Yang Pen Pakati』があり、作品は英語や日本語にも翻訳されている。文芸評論やコラム執筆も行う。



カーリーナ・ロブレス・バーリン | Karina Robles Bahrin

マレーシア(国際交流基金ASEAN文芸フェロー)

マレーシア、ランカウイ在住。小説家。New Straits Times および Focus Malaysia 元コラムニスト。長編小説『The Accidental Malay』が2022年エビグラム・ブックス・フィクション賞を受賞して小説家デビュー。短編がさまざまなアンソロジーに収録されている。



キム・ヘビン | Kim Hyebin

韓国(Arts Council Korea フェロー)

韓国出身。小説家。韓国芸術総合学校を卒業後、2023年に「レッドボール」でデビュー。神話と現実を融合させた長編『The Graiai』により、バク・ファソン文学賞を受賞。アイデンティティや文化的記憶、スペキュラティヴな物語世界を主題にした作品を執筆している。



ムティター・パーニッチ | Muthita Panich

タイ(国際交流基金ASEAN文芸フェロー)

タイ出身。翻訳家。2005年より日本文学のタイ語翻訳を手がける。これまでに多和田葉子『犬婚入り』『献灯使』、村上春樹『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』などを翻訳。文学作品に限らず、幅広い分野で日タイ通訳としても活動している。



パトリック・フラナリー | Patrick Flanery

オーストラリア(京都文学レジデンシー フェロー)

アメリカ出身、オーストラリア在住。小説家、ノンフィクション作家。長編小説に『Night for Day』、『I Am No One』、『Fallen Land』、『Absolution』があり、『Absolution』はIMPACダブリン国際文学賞の最終候補作。2019年に家族・喪失・養子縁組をテーマにしたクリエイティブ・ノンフィクション『The Ginger Child』を出版。

クロージング・イベント(朗読会)

2025年11月16日[日] 14:00-16:00

朗読は作家本人が自国語で行います(日本語訳も提供)。

会場: 松栄堂 薫習館 KARANIホール

無料/定員60名(先着順、事前申込優先)/配信なし

詳細・申込はQRコードから→



ブックフェア

会場ごとに選書内容が異なります。

・京都丸善本店(京都BAL B1, B2F)

9月8日-11月2日開催

・京都 蔦屋書店(京都高島屋S.C. [T8] 5, 6F)

10月18日-11月17日開催

RITSUMEIKAN UNIVERSITY

RYUKOKU UNIVERSITY

京都芸術大学

JAPAN FOUNDATION

ARTS COUNCIL KOREA

ISTITUTO ITALIANO DI CULTURA

KYORITSU HOTELS & GOURMET

京都 蔦屋書店

MARUZEN

DMG MORI

松栄堂

MUZ

CAVA BOOKS

AAK